

令和元年度 山王保育所事業報告

1. 概要

①運営報告

- 今年度も近隣の区に小規模保育園含め新設園 5 園が開園し待機児童数は減少していますが、地域差は広がっています。その中で選ばれる園となるよう保護者をはじめ地域の方々へ情報発信を行い、地域交流にも積極的に参加しました。
- 年度途中の入園児童が多くその都度保育士を雇い入れましたが厳しいものがありました。最終的には派遣会社からの紹介で正職 1 名、7.5 時間パート 2 名、5 時間パート 1 名採用しました。派遣会社を通しての採用になり費用が掛かりました。人材確保の為に人材育成と働きやすい職場づくりは必至と考えます。
- 法人研修「一日の保育の流れ」に参加し、実際の保育見学を通して客観的に見直すことができました。園に持ち帰り職員と話し合いながら再考し、より現実の子どもに適した「一日の保育の流れ」になりました。これからは日々の保育に定着させていくことが課題です。
- 仁愛保育園の見学に伺い、立腰教育の内容とその意味を職員と共有し、子ども達の習慣となるよう日々取り組みました。まだまだ、途中ですが少しずつ落ち着きが見られるようになってきました。保護者の方々にも好評です。継続は力なりこれからも丁寧に取り組んでいきます。
- パソコンのデータ管理にバックサーバーを導入しました。
- 感染症予防のために各クラスに空気清浄機を設置しました。

②定員 90名（定数外17名） 合計107名（令和2年3月）

③事業日数 291日（日曜、祝日及び12月29日より1月3日は休園とします）

④開所時間 平日7:30～18:30 土曜日7:30～18:30

⑤保育時間 標準時間保育 7:30～18:30 短時間保育 8:00～16:00

⑥職員数

園長 1名、主任 1名 保育士 19名（うち派遣会社保育士 2名・パート保育士 6名）
看護師 1名 栄養士 1名 調理員 3名（うちパート調理員 2名）
嘱託医（内科、歯科）各 1名（内科年 4回、歯科年 1回 健診）

2. 保育運営

①保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子供社会の中で成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・

発達の援助を行います。

②保育方針

- 子どもたちが生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分に発揮し、人として『生きる力』を育む。
- 保護者との信頼関係を築き、安心して預けられる保育の場を提供する。
- 地域における子育て支援の為、保育に関する相談や助言の役割を果たす。

③保育目標

- 乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力（記憶、計算、判定、言語理解など）と非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感）を育む。

④クラスの編成及び職員配置

0歳児	さくらんぼ組	12名	保育士4名（内パート保育士2名）
1歳児	いちご組	18名	保育士3名（内パート保育士1名）
2歳児	もも組	17名	保育士3名（内パート保育士1名）
3歳児	くり組	20名	保育士2名（3歳児加配パート保育士1名）
4歳児	みかん組	19名	保育士2名（うち障がい児加配保育士1名）
5歳児	かき組	21名	保育士2名（うち障がい児加配保育士1名）

合計園児数 107名 保育士16名

H31年度 4月86名 5月90名 6月92名 7月96名 8月99名 9月99名
10月103名 11月105名 12月106名 1月106名 2月106名
3月107名

H31年度 4月88名 → 3月107名

障がい児保育担当保育士 2名（正職1名・契約職員1名）

フリー保育士 2名

⑤保育内容

- 全体的な計画から年間指導計画・月間指導計画へつながりのある保育を目指し、月案の活動内容が全体的な計画の「幼児期までに育ってほしい10の姿」の何に繋がっているかを活動欄に記入し、目的を明確にして保育を行いました。
- 「一日の保育の流れ」の修正を作成より年数が経過したため現状に沿った手順書となるよう法人で見直しを半年かけて行いました。法人での研修から何が大切であるか、なぜ大切であるかを理解して進めることが出来るようになってきています。「あきらめず・毎日繰り返すことの大切さ」を職員同士刺激しあいながら、これからも取り組んでいきます。
- 乳児クラスは保育者との愛着関係のもと、安心できる居場所づくりを大切に、人・物的環境を整えました。一人一人の発達に合わせた個別計画をクラス担任間で共有する事で、担当制ではあり

ますが担任全体で一人ひとりの子どもの状況や課題は把握するように努めました。

- 幼児クラスの「毎朝の意味ある運動」の内容に変化をつけ、子どもの発達に合わせたコーナーづくりや、廊下の空きスペースや、階段を利用して体の使いこなし方や体幹を鍛えるメニューを取り入れました。子ども達もチャレンジ精神旺盛になり意欲的に取り組んでいます。
- 食育では年間食育計画に基づいて、野菜の栽培や収穫、クッキングを行い食への興味関心を育みました。4・5歳児は、包丁の使い方など器具の安全な使い方が上手になりました。保護者へクッキングの様子を伝えることで「家でも一緒にしました。」という便りも届くようになってきています。これからは家庭をどのように巻き込んでいくかが課題と考えています。
- 本年度も全国人権擁護委員連合会のリーフレット「種をまこう」を題材に人権教育を行いました。毎年同じ内容で行っていますが、進級する毎に同じ内容でも理解が深まっていることがよくわかります。また、外国籍の子どもが多い園として職員も文化の違いを理解し、言葉がけや援助を行いました。いろいろな国籍の子ども達が一緒に生活できる環境は、子ども達にとって偏見を生むことなく、日常としてとらえることが出来る良い機会になっています。

⑥家庭との連携

家庭訪問（4月）全体懇談会・保育参加（5月）保育を楽しむ日（11月）、クラス懇談会（5月・11月）個人懇談会（2月）・給食味見会（5月・11月）

- 保育の見える化やその保育の目的を保護者に分かりやすく伝えるため、ドキュメンテーションを取り入れています。保護者から「わかりやすい」「先生毎日大変やと思うけど、うれしい」などの言葉をいただきました。また、開始してから約2か月後、保護者全体懇談会でドキュメンテーションの説明を行うと皆さんから賛同の大きな拍手をいただきました。
- 「早寝・早起き・朝ごはん・朝ウンチ」を提唱し続けていますが、保護者の生活が夜型でなかなか早寝早起きが難しいです。夜に早く入眠できるよう午睡後の活動の在り方も考えていく必要があります。課題として残っています。
- ネグレクトと判断され、こども相談センターに一時保護された園児1名（現在は通園しています）要対協で見守りが必要な家庭（6家庭）は、毎日記録をとり関係機関と連携して見守りを続けています。
- 発達が気になる子どもの保護者と話し合い2件発達相談に繋がりました。支援が必要な子どもの個別計画書の書式を変更し、保護者の意向を記入して頂く箇所を設けました。丁寧に記入していただき、母の思いを受け止めることで一緒に進めやすくなりました。また、保護者と毎月懇談をし、評価や反省を一緒に行うことで、次月への継続がしやすくなりました。

⑦人材育成

- 「一日の保育の流れ」の法人研修に参加し、マニュアル修正を行いました。その後、クラスに入りOJTをする中で「今の〇〇はこういうことだったね」等話を通じ合い、お互い納得して進めることが出来ました。また、0歳児から5歳児まで半年間かけて毎月1回ずつの研修だったので、一学年ずつ丁寧に進めることができ良かったです。そして、各年齢の繋がりの大切さを職員はすごく感じたようで、クラスを超えて話し合う姿が多くなりました。年度が替わり環境が変わりま

すが途切れないうよう継続していきます。

- ドキュメンテーションを通して、目的を意識した保育を行う事ができ、子どもの思いや成長に気づく良い機会となっていますが、保育士によりばらつきがあります。子どものその瞬間をとらえられる観察力や、洞察力を養うことが今後の課題と考えています。
- 法人の理念・方針に沿った個々の職員の個別研修計画を立て、園内外の研修に参加しました。
- 本年度はスマイルサポーターの資格を1名取得しました。

⑧地域の実態に対応した事業

地域子育て支援事業（月刊誌「はぎっず」にて周知しました）

- 毎月4回保育所体験（園庭、ホール開放）を行いました。
（令和2年2月以降はコロナウイルスの流行により中止しました。）

地域活動

- 天下茶屋保育所、天下茶屋幼稚園、若草保育園と幼保交流を行いました。（年2回）
- 図書ボランティアによる読み聞かせ会に参加しました。（年2回）
- 地域の老人会で和太鼓の披露を行いました。
- 隣の老人施設みどり苑と交流会を行いました。（年2回）
- 西成警察と連携して防犯教室に参加しました。
- 西成区クリーンキャンペーンに参加しました。

小学校との接続

- 金塚祭り（金塚小学校主催）に招待いただき、小学生との交流体験を行いました。
- 金塚小学校、天下茶屋小学校の先生に保育参観に来ていただき意見交換会を行いました。
- 新型コロナウイルスの流行により小学校見学は中止しました。

⑨苦情処理

- 第三者委員会の設置について、園のガイドブックや掲示または、入園説明会、全体懇談会にて保護者に周知しました。
- 苦情解決責任者を主任として、意見箱の設置やアンケートも行い受け付けておりましたが今年度の苦情は0件でした。
- 転園や卒園の意見や相談について園長が窓口として受け付けていますが、今年度は0件でした。
- 保護者からの意見や要望には速やかに対応し、直近の昼礼や職員会議で報告し職員皆で共通理解を図りました。

⑩リスクマネジメント

- 危機管理委員会を中心にマニュアルを見直し計画的に勉強会を行いました。全職員への周知はできておりません。今後の課題として、パート職員等それぞれ参加しやすい時間帯を設け、全職員周知を目指します。
- 新型コロナウイルス感染症の予防として「手洗い・うがい・咳エチケット・マスク着用の励行」を園児、

保護者、職員皆で努めました。保育室入室前には手指のアルコール消毒を励行しました。

保育所内の消毒は朝、昼に行い特に手すり・取っ手・スイッチ・玩具等、よく触るところは回数多く丁寧に行いました。体温チェック・体調チェックも登園時、午睡前、おやつ後に行いました。

- 保健指導・健康管理計画に基づき毎月職員会議の場でリスク予防の研修を行いました。(嘔吐処理セットの見直し(2か月に1回)・嘔吐時の処理方法のシミュレーション・ケガをした時の対処の仕方 感染症について等)
- 災害時に備えて備蓄品の点検、整備を行いました。期限の近いものは給食室で食材やおやつで使用し、新しく補充を行いました。
- 様々な場面、時間を想定した、地震、火災、津波の災害訓練を行いました。
- 食物アレルギーマニュアルの勉強会を行い、給食・おやつの提供の仕方を職員で確認しました。また、土曜日の給食献立からアレルギー食材は除いています。
- S I D S、溺水の救命や救急車要請等職員間で役割を決め訓練を行いました。
- 総合災害訓練(火災・消火・地震)(6月・西成消防署) 防災センター(火災、地震体験)の体験学習(12月)

⑪その他

- 床の清掃ワックスがけを行いました。
- パソコンのデータ管理に PRIMERGY パックサーバーを導入しました。
- 空気清浄機を6台購入しました。